〈資料紹介〉

林山文庫蔵・近世の往生伝関係資料

―特に女人往生伝について―

教授　石　橋　義　秀
（国文学〈中古・中世の仏教文学・説話文学〉）

故林山義猷師の蔵書（約5370部9200冊の貴重な図書資料）が大谷大学図書館に寄贈され、林山文庫と名付けられたが、他に類例のない貴重な資料が数多く、学内外の研究者に閲覧され、研究利用されている。昭和59年（1984）11月に林山文庫目録が刊行され、宗乗(*)約4030部・余乗(*)約620部・外典(*)約720部の内容を見渡すことができる。仏教文学を研究する立場から今回、近世の往生伝関係資料について概観する。

林山文庫目録［第一門　仏教通記　5　伝記　ホ　往生伝］に、往生伝関係資料が21部あるが、その内、近世の往生伝関係資料は12部ある。

筆者は、林山文庫蔵を含めて、大谷大学図書館に蔵せられている近世の往生伝類［20余種］を調査し、報告した［『文藝論叢』第８号に掲載］。その報告で、整理した結論を紹介すると、近世の往生伝類は、（A）先行文献からの抜書を主にするものと、（B）当時の往生人の聞書を主にするものとに大別できる。林山文庫蔵・近世の往生伝関係資料12部を見ると、（A）に該当するものは、浄土勧化三国往生伝６巻［余大7276］・女人往生伝２巻［宗大8653］の２部であり、（B）に該当するものは、以下の10部である（近世南紀念仏往生伝３巻［余大7377］・近世念仏往生伝９巻［余大7374］・近代奥羽念仏験記３巻［余大7370］・現証往生伝３巻［余大7369・余大7380］・緇白往生伝３巻［余大7497］・拾遺専念往生伝２巻［余大7373］・新選往生験記３巻［余大7378］・新聞顕験往生伝３巻［余大7368］・随聞往生記３巻［余大7375］・専念往生伝６巻［余大7376］）。



なお、林山文庫蔵・近世の往生伝関係資料には見られないが、大谷大学図書館には、（A）先行文献からの抜書を主にするものとして、扶桑寄帰往生伝２巻［宗大1731］と、日本古今往生略伝１巻［宗大1498］がある。両書ともに漢文で記されており、近世の往生伝としては、比較的早い時期に編纂されたものである［前書は延宝元年（1673）成立、宝永３年（1706）刊で、後書は延宝８年（1680）成立、天和３年（1833）刊である］。《ちなみに、浄土勧化三国往生伝・女人往生伝は、和文で記されている。》

与えられた紙数はあと僅かのため、特に注目すべき女人往生伝について次に紹介したい。

女人往生伝　刊本２冊。縦26.8糎、横19.1糎。外題『女人往生伝　上』（題僉。下巻は題僉なし）、内題『女人往生伝　上・下』、柱題『女生伝　上・下』、上巻に序、下巻に跋あり。刊記「花洛書林／二口伊予刊梓」。大谷大学図書館には、林山文庫蔵本の他に、もう一種、１冊本が蔵せられている（宗大2368）。上下２冊本を１冊に合綴したもの。縦26.2





『女人往生伝』［宗大8653］

糎、横18.4糎。外題『女人往生伝　上下』で、内題・柱題・序・跋・刊記は林山文庫蔵本に同じ。刷りは、林山文庫蔵本より鮮明であるが、後刷りである（内容は同じ）。

編者は、内題の下に「仏牙院　向西　纂」と明記されている通り、湛澄で、成立時期は、跋によると、貞享2年（1685）春である。序に

> 弥陀の本願　たくみなれは　五障の女人も　えらはれす　称名の巨益　たへにして　一念の心行も　もるることなし　むかし恵心僧都　勧女往生義を著して　此趣を勧（中略）予もいささかの　志ことありて　つたなき　身の程をわすれ　かしこき　事跡に倣て　もろこし我朝の往生せる女倫を考　四十七字の和語をもて　四十八人の行状をしるし　女人往生伝と　名付けて　念仏者の鏡に備侍る

と成立事情を記す。古来、往生し難いとされた女人も弥陀の本願により救われるという事跡に基づき、四十八願にちなみ、上下2巻に、48人の唐土・我朝の女人往生伝記を収め、念仏者の鏡にした点、注目に値する。

湛澄（1651～1712）は、国文に精通し、『女人往生伝』撰述の翌貞享3年（1686）から4年にかけて、向阿証賢の『三部仮名鈔』を注解した『帰命本願鈔並諺註』6巻、『西要鈔並諺註』4巻、『父子相迎並諺註』4巻を著し、元禄元年（1688）に『標註一言芳談抄』3巻を、元禄6年（1693）に法然の和歌を注した『空花和歌集』3巻を著すなど、多くの著述を残している。

《付記》『女人往生伝』は、先行文献からの抜書を主にし、和文で記したものであり、取り上げた。『女人往生伝　上下』の本文翻刻は、『文藝論叢』第28号・第29号に掲載した。ご参照いただきたい。

（＊）
宗乗…真宗学関係の図書資料
余乗…真宗学を除く、仏教学並びに仏教各宗関係の図書資料
外典…真宗学・仏教学を除く、一般学術図書資料